



第109号  
令和8年5月30日発行

石坂洋次郎文学記念館  
〒013-0005  
秋田県横手市幸町  
2-10  
TEL&FAX  
0182(33)5052

令和8年度石坂洋次郎文学記念館

ミニ企画展「石坂洋次郎遺品展」

—— 絵画・書画編 ——

◇会期

令和8年

6月24日(水)～9月6日(日)

◇場所

石坂洋次郎文学記念館

◇休館日

会期中なし

◇主催

横手市教育委員会

石坂洋次郎文学記念館施設運営協議会

石坂洋次郎文学記念館友の会

ミニ企画展準備のため、  
次の2日間は臨時休館します。  
6月22日(月)、23日(火)

1986(昭和61)年10月7日に石坂洋次郎が逝去した後、ご遺族から横手市に多くの遺品が寄贈されました。その中には洋次郎の自宅に飾られていた絵画や書画も含まれています。本展では寄贈された絵画と書画を中心に展示します。こちらの絵画、書画は複製を含みます。また、洋次郎が芸術家や絵画などについて書いた随筆の抜粋文章や収録の図書も併せて紹介します。皆様のご来館をお待ちしています。



◇お知らせ

●休館日

今年度の休館日は、次の通りです。

○11月30日まで

●臨時休館日 6月22～23日、

9月7～9日

○12月1日～令和9年3月31日

●毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)

●祝日の翌日(2月12日は「横手の雪まつりかまくら」開催期間のため開館)

●年末年始(12月29日～1月3日)

●※月曜休館のため、12月28日～

1月4日まで休館

●臨時休館日 1月19日

●展示資料紹介

●展示資料紹介

ただいま個人蔵の石坂洋次郎直筆

原稿「林檎の花咲くころ」冒頭2枚

を展示中です。本作は1946(昭和

21)年5月に『主婦之友』に掲載

された短編小説。戦後の青森を舞台

に、夫の戦死と亡夫の弟の復員によ

り子供を連れて婚家を出た女性が自

身の行動と人柄で安心できる居場所

を見つめる姿を描いたものです。

# ◆開催報告

## 令和7年度企画展

### 「洋次郎と昭和100年」

— 石坂文学で振り返る昭和 —

前期 9月19日(金)～11月11日(火)

後期 11月13日(木)～1月18日(日)

石坂洋次郎の著作や写真、原作映画のポスターと共に当時の出来事や流行などを紹介する企画展を開催しました。展示した資料は前期が93点、後期が96点です。

会期中、展示を見ながらその年代の思い出を語られる方や、ご自分や家族が生まれた年の作品や映画、写真を見つけて喜ぶ方の姿が見られました。本展では洋次郎が亡くなった19

86(昭和61)年以降の石坂作品に関する動向も図書と当館作成の年譜を用いて紹介しま



昭和元年代(1926～1934年)コーナー。「海を見に行く」や「若い人」などを展示。

した。

没後は次第に著作が書店から消え始め、紙の本は一部を除きほぼ絶版状態に。

1990年代初めころには「忘れられた作家」と評されるようになります。しかし近年、横手市内の学校の授業での取り上げや「青い山脈」、「若い人」の新たな出版、YouTubeの原作映画解説番組、三浦雅士氏による評論や編者を務めた洋次郎短編集の発売など再評価の兆しが見えています。



没後の動向紹介コーナー

## 令和7年度ミニ企画展 「横手ゆかりの作家展」

1月21日(水)～3月31日(火)

横手ゆかりの作家である石川達三、水木京太、伊藤永之介、鶴田知也、山村暮鳥、むのたけじ、鈴木清の作品と、

彼らと洋次郎との関わりなどについて紹介するミニ企画展を開催しました。本展ではあきた文学資料館から提供していただいた伊藤永之介の写真も紹介しました。展示した資料は30点です。

来館者からは「芥川賞作家が二人もいて驚いた(石川達三は第一回、鶴田知也は第3回の受賞者)」、「洋次郎と作家達との交友関係が面白い。プロレタリア作家とも付き合いがあったのが意外」、「横手で山村暮鳥の名前を見るとは思わなかった」などの声が聞かれました。

令和8年6月21日(日)まで、石川達三、むのたけじ作品を紹介するコーナーを設けています。ミニ企画展開催中にお出でになれなかった方も、ぜひご覧下さい。



ミニ企画展 展示風景